

クラウドストレージと連携する

ネットワーク接続ハードディスク HDL-H シリーズ
クラウドストレージ連携パッケージ

ご注意

- 事前に本パッケージの追加をおこなってください。パッケージの追加方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

INDEX

Amazon S3 と同期する	2
Microsoft Azure と同期する	6
Box と同期する	10
Cloud [®] と同期する	14
Dropbox と同期する	18
Microsoft OneDrive と同期する	22
一括登録する	26
ログ・お知らせ一覧	28

更新内容

**Microsoft OneDrive / Microsoft OneDrive for
Bussiness 対応**

[【Microsoft OneDrive と同期する】\(22 ページ\)](#)

Amazon S3 と同期する

本製品の共有フォルダーと Amazon が運営するインターネット用の有償ストレージサービス Amazon S3 のバケットを同期させることができます。

Amazon S3 に関する詳細は、<http://aws.amazon.com/jp/s3/> をご覧ください。
同期動作は本製品から Amazon S3 へのアップロードと、Amazon S3 から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは 1 分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際にアップロードが開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約 2 分後になります。

※本製品の Amazon S3 連携機能は、署名バージョン 2 のみに対応しています。一部の署名バージョン 4 を必要とするリージョンには対応しておりません。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数には設定できません。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効 (毎日同期有効) に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- Amazon S3 の Glacier ストレージクラスには対応しておりません。
- Amazon S3 は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。
Amazon S3 ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用することをおすすめします。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいないことを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。

Amazon S3 の設定を確認する

事前に、Amazon S3 (<http://aws.amazon.com/jp/s3/>) にアクセスし、AWS アカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、以下をメモしてください。

- ・バケット名
- ・作成したアカウントのアクセスキー ID
- ・シークレットキー

※バケット名は、3 文字以上 63 文字以内で作成してください。

※アクセスキーは、「セキュリティ証明書」または「Security Credentials」から作成します。

※アクセスキー ID とシークレットキーについては、そのアカウントでの AWS サインアップ後、Amazon S3 ホームページ画面右上の [アカウント / コンソール] の [セキュリティ証明書] を開いた先の [アクセス証明書] の [アクセスキー] タブをご参照ください。

※ Amazon S3 についての不明点、通信料金、規約については、Amazon S3 のホームページにてご確認ください。

Amazon S3 との同期を有効にする

あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

1



共有



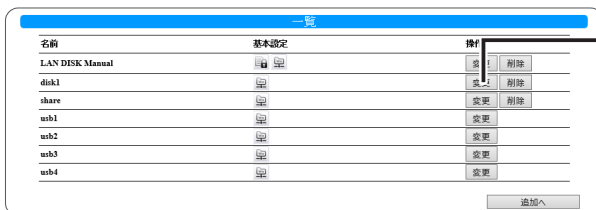
フォルダー



一覧

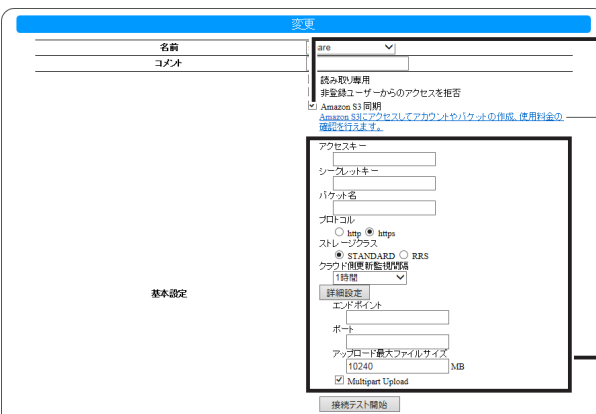
[共有] → [フォルダー] → [一覧] をクリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



① [基本設定] の [Amazon S3 同期] にチェック

※リンクをクリックすると、Amazon S3 に関する現在の利用料金などの契約情報が確認できます。

② 契約情報を入力する

アクセスキー	作成した [アクセスキー] を入力します。
シークレットキー	作成した [シークレットアクセスキー] を入力します。
バケット名	作成した [バケット名] を入力します。
プロトコル	Amazon S3 との通信プロトコルを選びます。 [https] を選んだ場合、LAN DISK と Amazon S3 間の通信は暗号化されます。 ※ [http] を選び、かつ本製品のプロキシ設定を利用する場合、使用するプロキシサーバーの機能によっては同期に失敗することがあります。その場合は、[https] をお試しください。
ストレージクラス	Amazon S3 のバケットに保存するファイルのストレージクラスを選びます。 ※ストレージクラスについては Amazon S3 のホームページをご確認ください。
クラウド側更新監視間隔	Amazon S3 のバケットのファイルの更新監視間隔を選びます。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。

詳細設定	エンドポイント	エンドポイント名（ホスト名）を直接入力する場合に設定します。 ※空白の場合は、Amazon S3 のエンドポイントが利用されます。
	ポート番号	Amazon S3 にアクセスする際のポート番号（TCP）を入力します。 ※空白の場合は、プロトコルで [http] を選ぶと 80、[https] を選ぶと 443 を使います。
	アップロード最大ファイルサイズ	ファイルをアップロードする際の最大ファイルサイズを入力します。 これを超えるファイルはアップロードされません。 ※ M バイト単位で設定します。 [最大 5242880MB (5TB)]
	Multipart Upload	Multipart Upload を使うかどうかを選びます。 ※ただし、100MB 未満のファイルをアップロードする際は、SinglePart Upload を使います。 ※チェックしない場合、5GB 以上のファイルはアップロードできません。

4



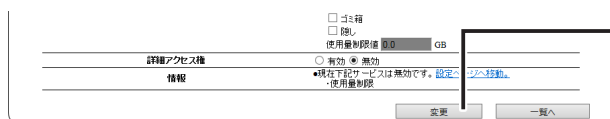
① [接続テスト] をクリック
しばらく後に「接続テスト成功」
と出ることを確認します。

② [OK] をクリック

接続テストに失敗した場合

- 入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。(特に、エンドポイントやポート番号を初期値から変更している場合は、ご注意ください。)
- 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいかも確認してください。)

5



接続テストに成功したら、
[変更] をクリック

以上で、Amazon S3 同期が有効になりました。

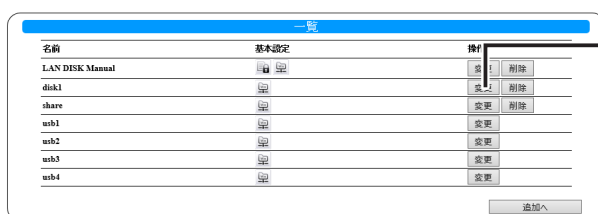
任意のタイミングでダウンロードする場合

1



[共有] → [フォルダー] → [一覧] を
クリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



[ダウンロード開始] を
クリック

以上で、ダウンロードされます。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「Amazon S3」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「[(同期実行日時)_summary.log]」というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「[(同期実行日時)_failed.log]」というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「[(同期実行日時).log]」というファイル名のログファイルも保存されます。

「[(同期実行日時).log]」というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「[(同期実行日時)_summary.log]」と一緒に自動的に削除されます。

なお、「[(同期実行日時)_failed.log]」は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、BOX ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	BOX ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。BOX ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ BOX ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

Microsoft Azure と同期する

本製品の共有フォルダーと、Microsoft が運営するインターネット用の有償ストレージサービス Azure Blob Storage (<http://azure.microsoft.com/>) のコンテナを同期させることができます。

同期動作は本製品から Azure へのアップロードと、Azure から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは 1 分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際にアップロードが開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約 2 分後になります。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数には設定できません。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効 (毎日同期有効) に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- アップロード可能なファイルは、1 ファイル 200GB までです。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- Azure 上の Blob はブロック Blob のみが同期対象となり、ページ Blob は同期対象外となります。
- Microsoft Azure の Blob Storage は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。
Microsoft Azure ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用することをおすすめします。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "__tmp_file_for_Copy..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいないことを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。
- 共有フォルダー内にある空のフォルダーは、同期の対象となりません。

Microsoft Azure の設定を確認する

事前に、Microsoft Azure (<http://azure.microsoft.com/>) にアクセスし、Microsoft アカウントを作成してください。アカウント作成後、そのアカウントにてさらにストレージアカウントやコンテナを作成、およびプライマリアクセスキーを確認し、以下をメモしてください。

- ・コンテナ名
- ・ストレージアカウント名
- ・作成したストレージアカウントのプライマリアクセスキー

※ストレージアカウントは、Microsoft アカウントでサインイン後、Microsoft Azure ホームページ画面左下の「新規」の「データサービス」の「ストレージ」の「簡易作成」から作成します。

※コンテナは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面上の「コンテナ」の「追加」から作成します。

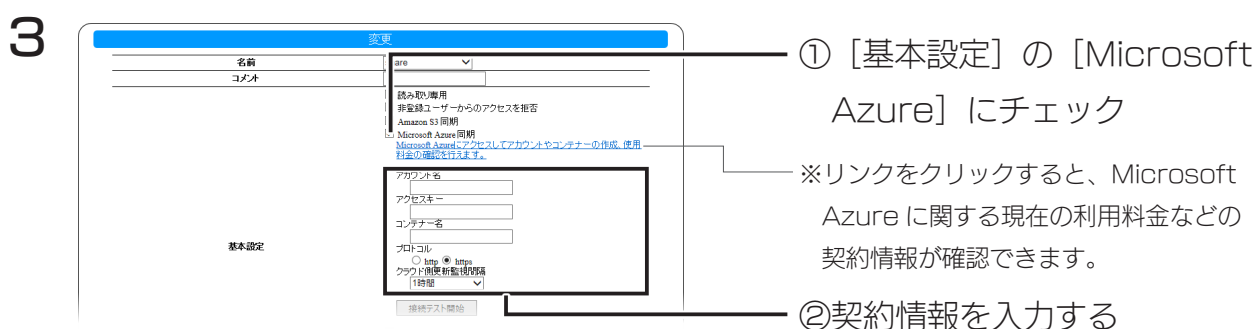
※プライマリアクセスキーは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面下の「アクセスキーの管理」から確認します。

※ Microsoft Azure についての不明点、通信料金、規約については、Microsoft Azure のホームページにてご確認ください。

Microsoft Azure との同期を有効にする

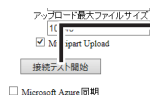
あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

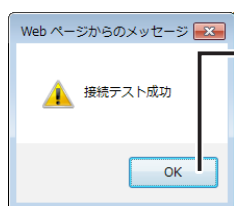


アカウント名	作成したストレージアカウント名を入力します。
アクセスキー	確認したアクセスキーを入力します。
コンテナ名	作成したコンテナ名を入力します。
プロトコル	Microsoft Azure との通信プロトコルを選びます。 [https] を選んだ場合、LAN DISK と Microsoft Azure 間の通信は暗号化されます。 ※ [http] を選び、かつ本製品のプロキシ設定を利用する場合、使用するプロキシサーバーの設定が必要です。 HTTP の CONNECT メソッドでのトンネル通信で、許可するポートに http (ポート 80 番) を追加してください。
クラウド側更新監視間隔	Microsoft Azure のコンテナのファイルの更新監視間隔を選びます。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。

4



① [接続テスト] をクリック
しばらく後に「接続テスト成功」
と出ることを確認します。

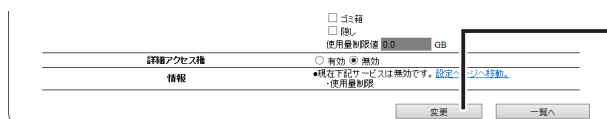


② [OK] をクリック

接続テストに失敗した場合

- 入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。(特に、エンドポイントやポート番号を初期値から変更している場合は、ご注意ください。)
- 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいかも確認してください。)

5



接続テストに成功したら、
[変更] をクリック

以上で、Microsoft Azure 同期が有効になりました。

任意のタイミングでダウンロードする場合

1



共有



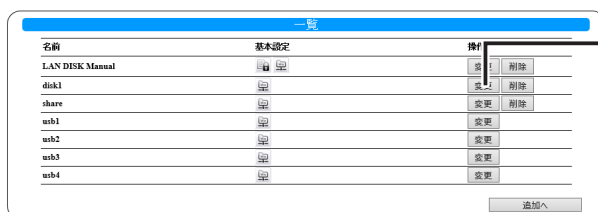
フォルダー



一覧

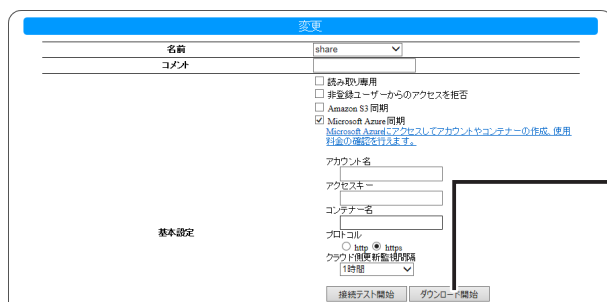
[共有] → [フォルダー] → [一覧] を
クリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



[ダウンロード開始] を
クリック

以上で、ダウンロードされます。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「Microsoft Azure」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「[(同期実行日時)_summary.log] というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「[(同期実行日時)_failed.log] というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「[(同期実行日時).log] というファイル名のログファイルも保存されます。

「[(同期実行日時).log] というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「[(同期実行日時)_summary.log] と一緒に自動的に削除されます。

なお、「[(同期実行日時)_failed.log] は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、BOX ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	BOX ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。BOX ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ BOX ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

Box と同期する

本製品の共有フォルダーと、Box 社が運営する法人向けクラウドストレージサービス Box (https://www.box.com/ja_JP/front/) を同期させることができます。

同期動作は本製品から Box へのアップロードと、Box から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは 1 分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際に同期が開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約 2 分後になります。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数設定できません。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- アップロード可能なファイルは 1 ファイルのサイズや使用可能容量は契約によって異なります。
(フリーアカウントはアップロード可能な 1 ファイルのサイズは 250MB、使用可能容量は 10GB)
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいないことを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。
特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "__tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。

Box との同期を有効にする

あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

1



共有 フォルダー 一覧

[共有] → [フォルダー] → [一覧] をクリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



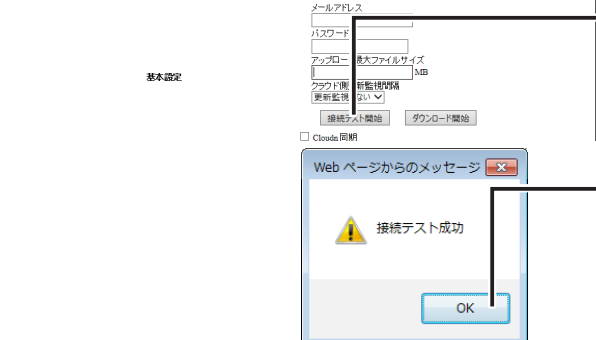
① [基本設定] の [Box 同期] にチェック

② 契約情報を入力する

メールアドレス	Box に登録したメールアドレスを入力します。
パスワード	Box に登録したパスワードを入力します。
アップロード最大ファイルサイズ	Box サーバーへのアップロードを行う最大サイズを入力します。 (初期設定値は「250」、「0」は制限なし)
クラウド側更新監視間隔	Box のコンテナのファイルの更新監視間隔を選びます。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。

※ Box 同期を有効に設定すると、入力されたメールアドレス / パスワードによりサーバーと通信がおこなわれ、アプリケーション "nasdsync" によるアクセスが自動で許可されます。

4



① [接続テスト開始] をクリック
しばらく後に「接続テスト成功」
と出ることを確認します。

② [OK] をクリック

接続テストに失敗した場合

- 入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。
- 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいかも確認してください。)
- パスワード間違いで何度か失敗した場合、ログイン認証情報が無効になった可能性があります。Box のホームページからサインインし、「ログイン認証情報が無効です」と表示されたら、画面の指示にしたがってサインインを完了させてください。

5

接続テストに成功したら、
[変更] をクリック

以上で、Box 同期が有効になりました。

任意のタイミングでダウンロードする場合

1



共有



フォルダー



一覧

[共有] → [フォルダー] → [一覧] を
クリック

2

名前	基本設定	操作
LAN DISK Manual		削除
disk1		削除
share		削除
usb1		削除
usb2		削除
usb3		削除
usb4		削除

変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3

名前: boxshare

コメント:

基本設定

- ☐ 読み取り専用
- ☐ 非登録ユーザーからのアクセスを拒否
- ☐ Amazon S3 同期
- ☐ Microsoft Azure 同期
- ☒ Box 同期

メールアドレス:

パスワード:

アップロード最大ファイルサイズ: 1GB

クラウド直転送転送開始

更新監視しない

接続テスト開始

ダウンロード開始

[ダウンロード開始] を
クリック

以上で、ダウンロードされます。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「Box」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「(同期実行日時)_summary.log」というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「[同期実行日時]_failed.log」というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「[同期実行日時].log」というファイル名のログファイルも保存されます。

「[同期実行日時].log」というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「(同期実行日時)_summary.log」と一緒に自動的に削除されます。

なお、「[同期実行日時]_failed.log」は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、BOX ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	BOX ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。BOX ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ BOX ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

Cloudⁿ と同期する

本製品の共有フォルダーと、NTT コミュニケーションズが運営するパブリッククラウドサービス Cloudⁿ (<https://www.ntt.com/cloudn/>) の Object Storage のバケットを同期させることができます。

同期動作は本製品から Cloudⁿ へのアップロードと、Cloudⁿ から本製品へのダウンロードに分けられ、アップロードは 1 分ごとに、ダウンロードは設定した時間ごとにおこなわれます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際にアップロードが開始されるのは、フォルダー内のファイルが更新されなくなってから約 2 分後になります。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数は設定できません。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効 (毎日同期有効) に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- Cloudⁿ の Object Storage は保存容量に応じて課金されます。
Cloudⁿ ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用することをおすすめします。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいないことを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。
特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。

Cloudⁿ の設定を確認する

事前に、Cloudⁿ (<https://www.ntt.com/cloudn/>) にアクセスし、アカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、バケット名とそのアカウントのアクセスキー ID とシークレットアクセスキーをメモしてください。

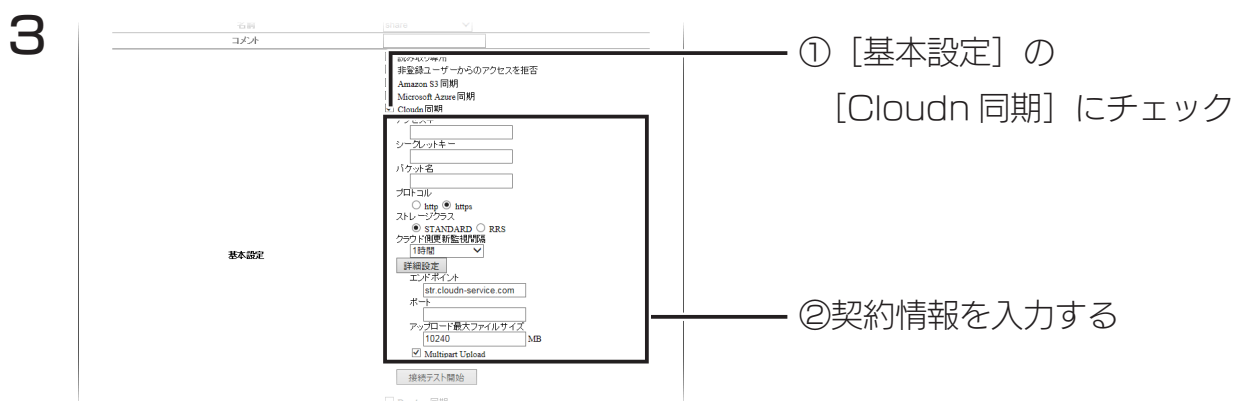
※アクセスキー ID とシークレットキー (秘密鍵) については、そのアカウントでのログイン後、Cloudⁿ ホームページ画面右上の [ようこそ (アカウント名) さん] 右側の▼から [API アクセスキー・秘密鍵管理] を開いた先の [Query API] をご参照ください。

※ Cloudⁿ についての不明点、通信料金、規約については Cloudⁿ のホームページにてご確認ください。

Cloudⁿ との同期を有効にする

あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

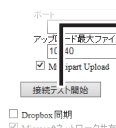
共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。



アクセスキー	作成した [アクセスキー] を入力します。
シークレットキー	作成した [シークレットアクセスキー] を入力します。
バケット名	作成した [バケット名] を入力します。
プロトコル	Cloud ⁿ との通信プロトコルを選びます。 [https] を選んだ場合、LAN DISK と Cloud ⁿ 間の通信は暗号化されます。 ※ [http] を選び、かつ本製品のプロキシ設定を利用する場合、使用するプロキシサーバーの機能によっては同期に失敗することがあります。その場合は、[https] をお試しください。
ストレージクラス	設定しません。Cloud ⁿ のバケットに保存するファイルのストレージクラスを選びます。 ※この項目は、Cloud ⁿ との同期では使いません。
クラウド側 更新監視間隔	Cloud ⁿ のバケットのファイルの更新監視間隔を選びます。 ※ [更新監視しない] を設定した場合は、自動での定期ダウンロードはおこなわれません。

詳細設定	エンドポイント	エンドポイント名（ホスト名）を直接入力する場合に設定します。 ※最初から「str.cloudn-service.com」が入力されています。
	ポート番号	Cloud ⁿ にアクセスする際のポート番号（TCP）を入力します。 ※空白の場合は、プロトコルで [http] を選ぶと 80、[https] を選ぶと 443 を使います。
	アップロード 最大ファイル サイズ	ファイルをアップロードする際の最大ファイルサイズを入力します。 これを超えるファイルはアップロードされません。 ※ MB 単位で設定します。 [最大 5242880MB (5TB)]
	Multipart Upload	Multipart Upload を使うかどうかを選びます。 ※ただし、100MB 未満のファイルをアップロードする際は、SinglePart Upload を使います。 ※チェックしない場合、500MB 以上のファイルはアップロードできません。

4



① [接続テスト] をクリック
しばらく後に「接続テスト成功」
と出ることを確認します。

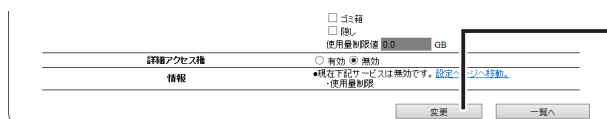


② [OK] をクリック

接続テストに失敗した場合

- 入力した契約情報がすべて正しいか確認してください。(特に、エンドポイントやポート番号を初期値から変更している場合は、ご注意ください。)
- 本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されているか、確認してください。(本製品のプロキシ設定を有効にしている場合、プロキシ設定が正しいかも確認してください。)

5



接続テストに成功したら、
[変更] をクリック

以上で、Cloud[®] 同期が有効になりました。

任意のタイミングでダウンロードする場合

1



共有



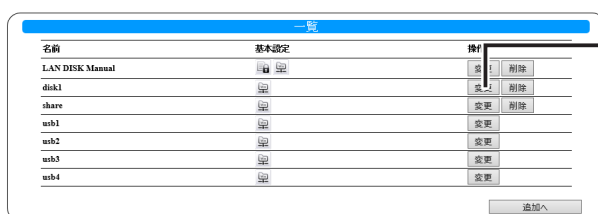
フォルダー



一覧

[共有] → [フォルダー] → [一覧] を
クリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



[ダウンロード開始] を
クリック

以上で、ダウンロードされます。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「Cloudn」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「[(同期実行日時)_summary.log] というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「[(同期実行日時)_failed.log] というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「[(同期実行日時).log] というファイル名のログファイルも保存されます。

「[(同期実行日時).log] というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「[(同期実行日時)_summary.log] と一緒に自動的に削除されます。

なお、「[(同期実行日時)_failed.log] は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、BOX ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	BOX ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。BOX ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ BOX ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

Dropbox と同期する

共有フォルダーとオンラインストレージサービス Dropbox (<https://www.dropbox.com/>) 間でデータを同期させることができます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際に同期が開始されるのは、同期対象共有フォルダー内のファイルが更新されなくなってから最短で約 2 分後となります。また、同期開始までの所要時間は、同期対象の共有フォルダー内のサブフォルダー数が多くなればなるほど長くなります。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数には設定できません。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- 本機能で使用する共有フォルダー、Dropbox アカウントのフォルダーにはどちらも、以下の制限があります。必ず制限範囲内でお使いください。
1 フォルダーの直下に置けるファイル・フォルダー数の合計は 10000 まで
※ Dropbox 上の 1 フォルダーの直下に 10000 ファイルを配置すると、Dropbox のブラウザー版では開けない場合があります。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいいることを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "__tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。
- 複数の共有フォルダーを一つの Dropbox フォルダー (アカウント) と同期させた場合、各共有フォルダー内のデータが互いに同期されます。共有フォルダーの使い分けをしている場合、各共有フォルダーごとに異なる Dropbox フォルダー (アカウント) をご用意ください。
- ファイル・フォルダー名に特殊な文字を使用した場合、ファイル・フォルダー名が一部変更される場合があります。

Dropbox との同期を有効にする

あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

1



共有



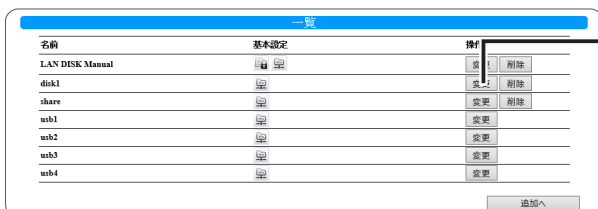
フォルダー



一覧

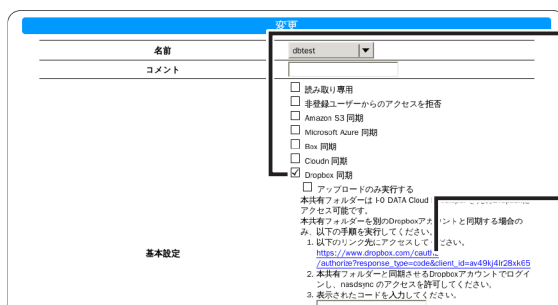
[共有] → [フォルダー] → [一覧] をクリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



① [Dropbox 同期] にチェック

② リンクをクリック

【アップロードのみ実行する】について

チェックをつけると、サーバー上の更新検出がおこなわれなくなり、アップロードのみ実行されます。(ダウンロードはおこなわれません)

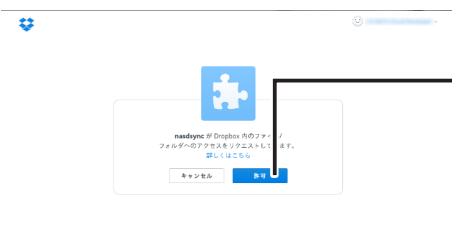
Dropbox 上の更新検出をおこなわないことにより、LAN DISK のファイル更新時に、Dropbox 上へアップロードされるまでの時間を短縮できます。

ただし、LAN DISK の起動直後や共有フォルダーの設定変更時など、Dropbox 上のファイルの情報取得をおこないますので、このときはフォルダー・ファイル数に応じて同期に時間がかかる場合があります。

4

Dropbox ログイン画面では、
本製品と同期させたいアカウントでログインする

5



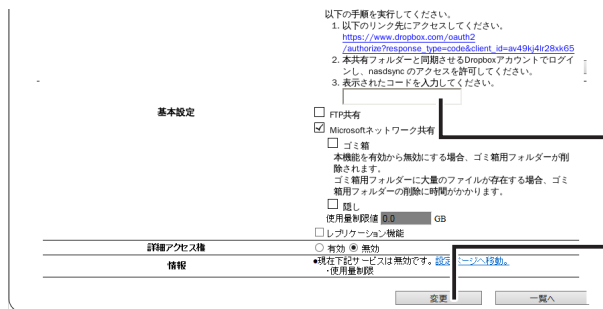
[許可] をクリック

6



コードが表示されたら、
コード全体を選択してコピー

7



※本製品の設定画面に戻ります。

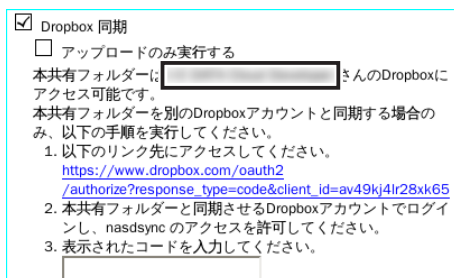
①コピーしたコードを貼り付ける

② [変更] をクリック

以上で、Dropbox 同期が有効になりました。

同期先の変更について

Dropbox 同期が設定されている場合、以下のように同期先のアカウントの名前が表示されます。
同期先を変更する場合についても、上記手順にしたがってください。



Dropbox アクセス権の削除

Dropbox 同期の設定を無効にしても、本製品に保存されたアクセスのための情報は保存されたままとなり、次に Dropbox 同期を有効にした場合に、この保存された情報が利用されます。

この情報を破棄する場合は、[Dropbox のアクセス権を削除する] にチェックを付けて共有フォルダーの設定を変更してください。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「Dropbox」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「〔同期実行日時〕_summary.log」というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「〔同期実行日時〕_failed.log」というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「〔同期実行日時〕.log」というファイル名のログファイルも保存されます。

「〔同期実行日時〕.log」というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「〔同期実行日時〕_summary.log」と一緒に自動的に削除されます。

なお、「〔同期実行日時〕_failed.log」は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、BOX ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	BOX ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。BOX ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ BOX ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

Microsoft OneDrive と同期する

共有フォルダーとオンラインストレージサービス Microsoft OneDrive (<https://onedrive.live.com/about/ja-jp/>) 間でデータを同期させることができます。

※「Microsoft OneDrive」という記載について、以降特に記載がない場合は「Microsoft OneDrive for Business」も含みます。

※本機能をご利用いただくには、本製品がインターネット環境に接続されている必要があります。

※実際に同期が開始されるのは、同期対象共有フォルダー内のファイルが更新されなくなってから最短で約 2 分後となります。また、同期開始までの所要時間は、同期対象の共有フォルダー内のサブフォルダー数が多くなればなるほど長くなります。

ご注意

- 1 つの共有フォルダーには、各クラウドサービスのうち 1 つを有効に設定できます。同時に複数には設定できません。
- 同期する前に本製品の時刻設定を NTP 同期有効に設定してください。時刻がずれると正常に同期できなくなります。
- 本機能を有効にした共有フォルダー内のファイルを直接編集しないでください。
※編集中に一時ファイルを作るソフトで編集している場合、その一時ファイルまでアップロードされます。
- USB HDD は、専用フォーマットで共有モードの場合のみ同期が実行されます。
- 同期の通信において、プロキシ設定が必要な場合は、あらかじめプロキシ設定をしてください。方法は、『画面で見るマニュアル』をご覧ください。
- 共有フォルダーの設定変更・削除をする場合は、本製品を利用しているユーザーがいないことを確認してから、作業することをおすすめします。
共有フォルダーの設定変更・削除をすると、その内容が反映されるまで、すべての共有フォルダーにアクセスできなくなります。特に、共有フォルダー内のファイル数が多く、使用量制限がかかっている場合に、内容反映の時間がかかります。
- USB HDD の共有フォルダーを同期する場合、その共有フォルダーのトップに "_tmp_file_for_Copy_..." という名前のファイルが一時的に作成される場合があります。そのファイルを削除や変更しないでください。同期処理に必要です。
- 作成可能なフォルダー・ファイル数などの制限は OneDrive のサーバーの制限にしたがいます。

Microsoft OneDrive との同期を有効にする

あらかじめ作成済みの共有フォルダーを同期する設定を説明します。

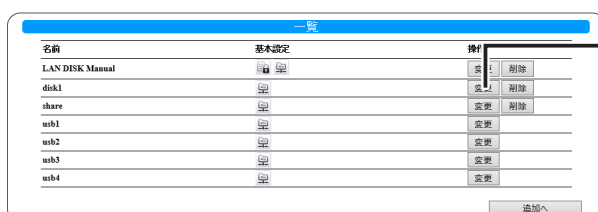
共有フォルダーの作成方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。

1



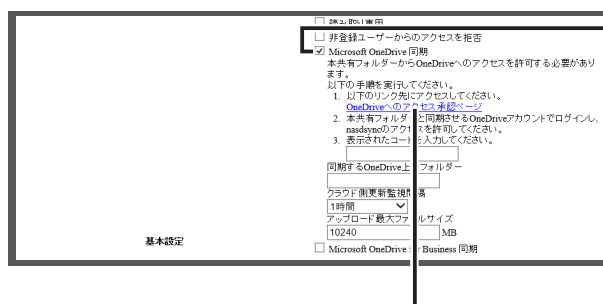
[共有] → [フォルダー] → [一覧] をクリック

2



変更する共有フォルダーの
[変更] をクリック

3



① [基本設定] の [Microsoft OneDrive 同期] にチェック

※ [Microsoft OneDrive for Business] の場合は、[Microsoft OneDrive for Business 同期] にチェック

② リンクをクリック

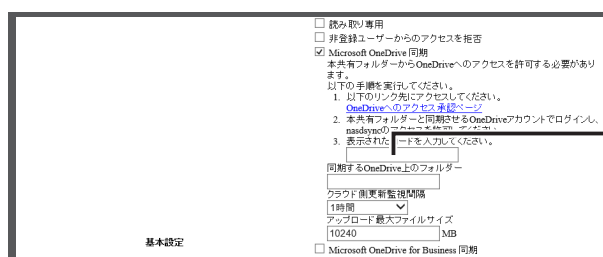
※ リンクをクリックする前に、すでに Web ブラウザーからログインしている場合は、ログアウト (サインアウト) してください。

4 Microsoft OneDrive ログイン画面では、本製品と同期させたいアカウントでログインする

※ 「nasdsync」に対するアクセスの許可を求められたら、許可の操作をします。

5 コードが表示されたら、コード全体を選択してコピー

6



※ 本製品の設定画面に戻ります。

コピーしたコードを貼り付ける

7

同期内容を設定する

同期する OneDrive 上のフォルダー	同期に使用する OneDrive フォルダー（パス）を入力します。 "/" で始めて、パスの区切り文字は "/" としてください。 (指定したパスが存在しない場合、自動で作成します)
クラウド側更新監査間隔	Microsoft OneDrive の更新間隔を選びます。
アップロード最大ファイルサイズ	Microsoft OneDrive サーバーへのアップロードを行う最大サイズを入力します。(初期設定値は「10240」、「0」は制限なし)

8

[変更] をクリック

以上で、Microsoft OneDrive 同期が有効になりました。

Microsoft OneDrive アクセス権の削除

Microsoft OneDrive 同期の設定を無効にしても、本製品に保存されたアクセスのための情報は保存されたままとなり、次に Microsoft OneDrive 同期を有効にした場合に、この保存された情報が利用されます。

この情報を破棄する場合は、[接続情報を削除する] にチェックを付けて共有フォルダーの設定を変更してください。

結果を確認する

本製品のログ記録用の共有フォルダー「LAN DISK Log」の「OneDrive」フォルダー以下に同期の結果を記録を残します。

「〔同期実行日時〕_summary.log」というファイル名のログファイルで内容を確認してください。

失敗した場合は「〔同期実行日時〕_failed.log」というファイル名のログファイルで、内容を確認してください。

成功した場合は「〔同期実行日時〕.log」というファイル名のログファイルも保存されます。

「〔同期実行日時〕.log」というファイル名のログファイルは最大 10 個まで保存されます。それ以上のログファイルが保存される場合は、その中で最も古い実行日時のファイルが同じ実行日時の「〔同期実行日時〕_summary.log」と一緒に自動的に削除されます。

なお、「〔同期実行日時〕_failed.log」は自動的に削除されませんので必要に応じて削除してください。

(共有フォルダー「LAN DISK Log」へのアクセス方法は本製品の【画面で見るマニュアル】をご覧ください。)

■ログファイルの内容と対処：ログ内容を「Error」で検索し、検索された場合は対処をご覧ください。

ログ内容	意味	対処
SizeTooLargeError	アップロードのファイルサイズの上限を超えています。	該当するファイルをアップロード元の共有フォルダから別の場所に移動してください。
NoSpaceError	ローカルの共有フォルダーまたはサーバーのファイル・フォルダー数またはファイルの合計サイズが制限値を超えています。	制限値を超えているファイル・フォルダーの移動または削除が必要です。
NoEntryError	フォルダーやファイルが見つかりません。	同期中に設定やファイル・フォルダーを変更しないようにしてください。
PermissionError	サーバー側に権限がないためファイル操作ができませんでした。	サーバー側の権限設定を確認してください。
ExistsError	以下のうちいずれかに該当します。 ・アップロード元にあるファイルと同名のフォルダーがアップロード先のサーバーに存在します。 ・アップロード元にあるフォルダーと同名のファイルがアップロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるファイルと同名のフォルダーがダウンロード先のサーバーに存在します。 ・ダウンロード元にあるフォルダーと同名のファイルがダウンロード先のサーバーに存在します。	同名のファイル、フォルダーのうち片方の名称を変更してください。
NameTooLongError	ファイル名の長さが制限値を超えています。	該当するファイルの名称を変更してください。
ServerCommunicationError	サーバーへの同時接続数が多すぎるか、ID もしくはパスワードの設定が間違っています。	ID もしくはパスワードに誤りがないか確認してください。ID もしくはパスワードに誤りがない場合、本機以外に同じ ID でサーバーに接続している機器が存在するなら接続台数を減らすことを検討してください。
ForbiddenNameError	ファイル名が不正です。	該当するファイルの名称を変更してください。

一括登録する

※一括登録に関して、【画面で見るマニュアル】の同項目をご覧になってから、本項目をご覧ください。

用意する CSV ファイルの要件、一括登録方法などが記載されています。

ご注意

- Dropbox 同期を有効にする場合は、一括登録を実行した後、【Dropbox との同期を有効にする】(19 ページ)の作業をおこなってください。

●設定書式カスタマイズ

- ・共有フォルダー設定項目定義

▼フィールド名と設定項目の対応

AmazonS3	AmazonS3 同期	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効
AmazonS3AccessKey	アクセスキー	文字列 / 空 (AmazonS3 が有効の場合指定必須)
AmazonS3SecretKey	シークレットキー	文字列 / 空 (AmazonS3 が有効の場合指定必須)
AmazonS3Bucket	バケット	文字列 / 空 (AmazonS3 が有効の場合指定必須)
AmazonS3HttpMethod	プロトコル	http または https / https
AmazonS3StorageClass	ストレージクラス	STANDARD または RRS / STANDARD
AmazonS3DownloadInterval	更新監視間隔	0-> 更新監視なし, 1 ~ 24-> 時間 / 1
AmazonS3EndPoint	エンドポイント	文字列 / 空
AmazonS3Port	ポート	数字文字列 / 空
AmazonS3UploadMaxFileSize	アップロード最大ファイルサイズ	数字文字列 / 10240
AmazonS3Mpuupload	Multipart Upload	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効
Cloudn	Cloudn 同期	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効
CloudnAccessKey	アクセスキー	文字列 / 空 (Cloudn が有効の場合指定必須)
CloudnSecretKey	シークレットキー	文字列 / 空 (Cloudn が有効の場合指定必須)
CloudnBucket	バケット	文字列 / 空 (Cloudn が有効の場合指定必須)
CloudnHttpMethod	プロトコル	http または https / https
CloudnStorageClass	ストレージクラス	STANDARD または RRS / STANDARD
CloudnDownloadInterval	更新監視間隔	0-> 更新監視なし, 1 ~ 24-> 時間 / 1
CloudnEndPoint	エンドポイント	文字列 / str.cloudn-service.com
CloudnPort	ポート	数字文字列 / 空
CloudnUploadMaxFileSize	アップロード最大ファイルサイズ	数字文字列 / 10240
CloudnMpuupload	Multipart Upload	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効
Azure	Microsoft Azure 同期	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効
AzureAccountName	アカウント名	文字列 / 空 (Azure が有効の場合指定必須)
AzureAccessKey	アクセスキー	文字列 / 空 (Azure が有効の場合指定必須)
AzureContainer	コンテナ名	文字列 / 空 (Azure が有効の場合指定必須)
AzureHttpMethod	プロトコル	http または https / https
AzureDownloadInterval	更新監視間隔	0-> 更新監視なし, 1 ~ 24-> 時間 / 1
Dropbox	Dropbox 同期	1-> 有効, 0-> 無効, 空-> 無効 / 無効

※各項目の設定形式と指定しない場合のデフォルト値を“設定形式 / デフォルト値”の形で示しています。

●CSV ファイルの記述例

ケース 1

共有フォルダー追加	Share1 を追加	AmazonS3 同期が有効 アクセスキーが "example-accesskey" シークレットキーが "example-secretkey" バケットが "example-bucket" プロトコルが "https" ストレージクラスが "STANDARD" 更新監視間隔が "1" 時間 エンドポイントが空 MS ネットワーク共有が有効 読み取り専用が無効
-----------	------------	--

▼上記設定内容の CSV ファイル

```
#share_config,Name,Comment,AmazonS3,AmazonS3AccessKey,AmazonS3SecretKey,AmazonS3Bucket,AmazonS3HttpMethod,AmazonS3StorageClass,AmazonS3DownloadInterval,AmazonS3EndPoint,Win,ReadOnly  
addshare,Share1,コメント,1,example-accesskey,example-secretkey,example-bucket,https,STANDARD,1,,1,0
```

※上記の #share_config 行は 1 行で記述してください。

※上記の "example-accesskey" と "example-secretkey" と "example-bucket" は AmazonS3 アカウントにて作成したものを記述してください。

ケース 2

共有フォルダー追加	Share2 を追加	Dropbox 同期が有効 MS ネットワーク共有が有効 読み取り専用が無効
-----------	------------	--

▼上記設定内容の CSV ファイル

#share_config,Name,Comment,Dropbox,Win,ReadOnly addshare,Share2,コメント,1,1,0

ケース 3

共有フォルダー追加	Share3 を追加	Cloudn 同期が有効 アクセスキーが "example-accesskey" シークレットキーが "example-secretkey" バケットが "example-bucket" プロトコルが "https" ストレージクラスが "STANDARD" 更新監視間隔が "1" 時間 MS ネットワーク共有が有効 読み取り専用が無効
-----------	------------	---

▼上記設定内容の CSV ファイル

#share_config,Name,Comment,Cloudn,CloudnAccessKey,CloudnSecretKey,CloudnBucket,CloudnHttpMethod,CloudnStorageClass,CloudnDownloadInterval,Win,ReadOnly addshare,Share3,コメント,1,example-accesskey,example-secretkey,example-bucket,https,STANDARD,1,1,0
--

※上記の #share_config 行は 1 行で記述してください。

※上記の example-accesskey と "example-secretkey" と "example-bucket" は Cloudn アカウントにて作成したものを記述してください。

ケース 4

共有フォルダー追加	Share4 を追加	Microsoft Azure 同期が有効 アカウント名が "example-account" アクセスキーが "example-accesskey" コンテナ名が "example-container" プロトコルが "https" 更新監視間隔が "1" 時間 MS ネットワーク共有が有効 読み取り専用が無効
-----------	------------	--

▼上記設定内容の CSV ファイル

#share_config,Name,Comment,Azure,AzureAccountName,AzureAccessKey,AzureContainer,AzureHttpMethod,AzureDownloadInterval,Win,ReadOnly addshare,Share4,コメント,1,example-account,example-accesskey,example-container,https,1,1,0
--

※上記の #share_config 行は 1 行で記述してください。

※上記の example-account と "example-accesskey" と "example-container" は Microsoft Azure アカウントにて作成したものを記述してください。

● CSV 一括登録でエラーが表示される場合

原因	「設定が不正です。」と表示される。
対処	設定値として以下の例のような不正な値が設定されています。CSV ファイルを修正してください。 例 1 : Amazon S3 同期を有効、かつ Dropbox 同期を有効で設定している。

ログ・お知らせ一覧

※レベルが [情報] のメッセージコードは、システムログには表示されません。

※ SNMP トラップで送信されるメッセージコードには "-" は含まれません。

カテゴリ	メッセージコード	レベル	メッセージ	液晶表示	説明	お知らせ	メール通知	NarSuS通知	SNMPトラップ
AmazonS3 ※ Cloud [®] に関する、このカテゴリで表示されます。	6104-0000	警告	共有フォルダー名 の同期に失敗しました。	AmazonS3 同期失敗	共有フォルダーの Amazon S3/Cloud [®] 同期に失敗した。	あり	—	—	あり
	6104-0001	警告	ファイル名 を同期できません。スキップします。	AmazonS3 ファイルスキップ	Amazon S3/Cloud [®] 同期時に同期できないファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6104-0002	警告	ファイル名 はアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	AmazonS3 サイズ超過	Amazon S3/Cloud [®] 同期時にアップロードできるサイズを超えるファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6104-0003	警告	対象フォーマットではありません。(共有フォルダー名)	AmazonS3 非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり
	6106-0000	警告	アクセスキーが不正です。(共有フォルダー名)	AmazonS3 同期失敗	Amazon S3/Cloud [®] 同期時にアクセスキーが不正だった。	あり	—	—	あり
	6106-0001	警告	シークレットキーが不正です。(共有フォルダー名)	AmazonS3 同期失敗	Amazon S3/Cloud [®] 同期時にシークレットキーが不正だった。	あり	—	—	あり
	6109-0000	警告	接続がタイムアウトしました。(共有フォルダー名)	AmazonS3 タイムアウト	Amazon S3/Cloud [®] 同期時に接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	6110-0000	警告	共有フォルダに空きがありません。(共有フォルダー名)	AmazonS3 共有空きなし	Amazon S3/Cloud [®] 同期時に共有フォルダに空きがなかった。	あり	—	—	あり
	6110-0001	警告	パケットが存在しません。(共有フォルダー名)	AmazonS3 同期失敗	Amazon S3/Cloud [®] 同期時にパケットが存在しなかった。	あり	—	—	あり
Dropbox	6004-0000	警告	共有フォルダー名 の同期に失敗しました。	Dropbox 同期失敗	共有フォルダーの Dropbox 同期に失敗した。	あり	—	—	あり
	6004-0001	警告	ファイル名 を同期できません。スキップします。	Dropbox ファイルスキップ	Dropbox 同期時に同期できないファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6004-0002	警告	ファイル名 はアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	Dropbox サイズ超過	Dropbox 同期時にアップロードできるサイズを超えるファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6004-0003	警告	対象フォーマットではありません。(共有フォルダー名)	Dropbox 非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり
	6009-0000	警告	接続がタイムアウトしました。(共有フォルダー名)	Dropbox タイムアウト	Dropbox 同期時に接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	6010-0000	警告	サーバーに空きがありません。	Dropbox サーバー空きなし	Dropbox 同期時に Dropbox サーバーに空きがなかった。	あり	—	—	あり
	6010-0001	警告	共有フォルダーに空きがありません。(共有フォルダー名)	Dropbox 共有空きなし	Dropbox 同期時に共有フォルダーに空きがなかった。	あり	—	—	あり
Azure	6504-0000	警告	共有フォルダー名 の同期に失敗しました。	Azure 同期失敗	共有フォルダーの Azure 同期に失敗した。	あり	—	—	あり
	6504-0001	警告	ファイル名 を同期できません。スキップします。	Azure ファイルスキップ	Azure 同期時に同期できないファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6504-0002	警告	ファイル名 はアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	Azure サイズ超過	Azure 同期時にアップロードできるサイズを超えるファイルをスキップした。	あり	—	—	あり
	6504-0003	警告	対象フォーマットではありません。(共有フォルダー名)	Azure 非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり
	6506-0000	警告	アクセスキーが不正です。(共有フォルダー名)	Azure 同期失敗	Azure 同期時にアクセスキーが不正だった。	あり	—	—	あり
	6509-0000	警告	接続がタイムアウトしました。(共有フォルダー名)	Azure タイムアウト	Azure 同期時に接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	6510-0000	警告	共有フォルダに空きがありません。(共有フォルダー名)	Azure 共有空きなし	Azure 同期時に共有フォルダーに空きがなかった。	あり	—	—	あり
	6510-0001	警告	コンテナが存在しません。(コンテナ名)	Azure 同期失敗	Azure 同期時にコンテナが存在しなかった。	あり	—	—	あり

カテゴリ	メッセージ コード	レベル	メッセージ	液晶 表示	説明	お知らせ	メール 通知	NarSuS 通知	SNMP トラップ
Box	7204-0000	警告	共有フォルダー名の同期に失敗しました。	同期失敗	共有フォルダーのBOX 同期に失敗した。 (%s: 共有フォルダー名)	あり	—	—	あり
	7205-0000	警告	サーバーへの接続が認証エラーになりました。 (共有フォルダー名)	接続エラー	メールアドレスもしくはパスワードが間違っていて設定されている。	あり	—	—	あり
	7209-0000	警告	サーバーと通信できません。 (共有フォルダー名)	サーバー通信 エラー	サーバーとの通信でエラーが発生した。	あり	—	—	あり
	7209-0002	警告	接続がタイムアウトしました。 (共有フォルダー名)	タイムアウト	サーバーとの接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	7210-0000	警告	フォルダーがクラウドサーバーに存在しません。 (クラウドサーバーのフォルダー名)	フォルダーなし	同期対象のフォルダーが存在しない。	あり	—	—	あり
	7210-0001	警告	共有フォルダーに空きがありません。 (共有フォルダー名)	共有空きなし	同期時に共有フォルダーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7210-0002	警告	サーバーに空きがありません。 (クラウドサーバーのフォルダー名)	サーバー空き なし	同期時にサーバーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7210-0003	警告	ファイルパスはアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	サイズ超過	ファイルのアップロードできるサイズを超えているためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0004	警告	ファイルパスは許可されていない名前です。スキップします。	ファイルスキップ	ファイル名が許可されていない名前が長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0005	警告	サーバー側のアクセス権限がありません。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー側でファイルへのアクセス権限がないためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0006	警告	サーバー側でロックされています。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	ファイルがサーバー側でロックされているためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0007	警告	ファイルパスを同期できません。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルが同期できなかったためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0008	警告	ファイルパスのパスが長すぎます。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルパスが長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0009	警告	サーバー上で同名となるフォルダ・ファイルが存在します。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー上の変換により同名となるフォルダ・ファイルが存在するためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7210-0010	警告	対象フォーマットではありません。 (共有フォルダー名)	非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり
OneDrive	7704-0000	警告	共有フォルダー名の同期に失敗しました。	同期失敗	共有フォルダーのBOX 同期に失敗した。	あり	—	—	あり
	7705-0000	警告	サーバーへの接続が認証エラーになりました。 (共有フォルダー名)	接続エラー	不正なコードが入力されている。	あり	—	—	あり
	7709-0000	警告	サーバーと通信できません。 (共有フォルダー名)	サーバー通信 エラー	サーバーとの通信でエラーが発生した。	あり	—	—	あり
	7709-0002	警告	接続がタイムアウトしました。 (共有フォルダー名)	タイムアウト	サーバーとの接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	7710-0001	警告	共有フォルダーに空きがありません。 (共有フォルダー名)	共有空きなし	同期時に共有フォルダーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7710-0002	警告	サーバーに空きがありません。 (クラウドサーバーのフォルダー名)	サーバー空き なし	同期時にサーバーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7710-0003	警告	ファイルパスはアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	サイズ超過	ファイルのアップロードできるサイズを超えているためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0004	警告	ファイルパスは許可されていない名前です。スキップします。	ファイルスキップ	ファイル名が許可されていない名前が長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0005	警告	サーバー側のアクセス権限がありません。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー側でファイルへのアクセス権限がないためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0007	警告	ファイルパスを同期できません。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルが同期できなかったためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0008	警告	ファイルパスのパスが長すぎます。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルパスが長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0009	警告	サーバー上で同名となるフォルダ・ファイルが存在します。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー上の変換により同名となるフォルダ・ファイルが存在するためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7710-0010	警告	対象フォーマットではありません。 (共有フォルダー名)	非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり

OneDrive	7804-0000	警告	共有フォルダー名の同期に失敗しました。	同期失敗	共有フォルダーの BOX 同期に失敗した。	あり	—	—	あり
	7805-0000	警告	サーバーへの接続が認証エラーになりました。 (共有フォルダー名)	接続エラー	不正なコードが入力されている。	あり	—	—	あり
	7809-0000	警告	サーバーと通信できません。 (共有フォルダー名)	サーバー通信エラー	サーバーとの通信でエラーが発生した。	あり	—	—	あり
	7809-0002	警告	接続がタイムアウトしました。 (共有フォルダー名)	タイムアウト	サーバーとの接続がタイムアウトした。	あり	—	—	あり
	7810-0001	警告	共有フォルダーに空きがありません。 (共有フォルダー名)	共有空きなし	同期時に共有フォルダーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7810-0002	警告	サーバーに空きがありません。 (クラウドサーバーのフォルダー名)	サーバー空きなし	同期時にサーバーに空きがない。	あり	—	—	あり
	7810-0003	警告	ファイルパスはアップロードできるサイズを超えています。スキップします。	サイズ超過	ファイルのアップロードできるサイズを超えているためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0004	警告	ファイルパスは許可されていない名前です。スキップします。	ファイルスキップ	ファイル名が許可されていない名前が長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0005	警告	サーバー側のアクセス権限がありません。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー側でファイルへのアクセス権限がないためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0007	警告	ファイルパスを同期できません。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルが同期できなかったためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0008	警告	ファイルパスのパスが長すぎます。スキップします。	ファイルスキップ	ファイルパスが長すぎるためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0009	警告	サーバー上で同名となるフォルダ・ファイルが存在します。スキップします。 (ファイルパス)	ファイルスキップ	サーバー上の変換により同名となるフォルダ・ファイルが存在するためスキップされた。	あり	—	—	あり
	7810-0010	警告	対象フォーマットではありません。 (共有フォルダー名)	非対象フォーマット	ボリュームが対象のフォーマットでない。	あり	—	—	あり

===== PACKAGE LICENSES =====

azure-sdk-for-python

Format: <http://www.debian.org/doc/packaging-manuals/copyright-format/1.0/>
Upstream-Name: Azure SDK for Python
Source: <https://github.com/Azure/azure-sdk-for-python>

Files: *
Copyright: 2013 Microsoft Corporation <ptvshelp@microsoft.com>
License: Apache-2.0

License: Apache-2.0
Licensed to the Apache Software Foundation (ASF) under one or more contributor license agreements. The ASF licenses this work to You under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this work except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

. <http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

. On a Debian system, the license can be found at
/usr/share/common-licenses/Apache-2.0 .

boto

Format: <http://www.debian.org/doc/packaging-manuals/copyright-format/1.0/>
Upstream-Name: boto
Source: <https://github.com/boto/boto>

Files: *
Copyright: 2010-2013 Mitch Garnaat <mitch@garnaat.com>
License: MIT

License: MIT
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

. The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

. THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

dropbox-python-sdk

Format: <http://www.debian.org/doc/packaging-manuals/copyright-format/1.0/>
Upstream-Name: Dropbox Python SDK
Source: <https://www.dropbox.com/developers-v1/core/sdks/python>

Files: *
Copyright: 2009-2014 Dropbox Inc., <http://www.dropbox.com/>
License: MIT

License: MIT
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

. The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

. THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

python-six

Format: <http://www.debian.org/doc/packaging-manuals/copyright-format/1.0/>
Upstream-Name: six
Source: <http://pypi.python.org/pypi/six/>

Files: *

Copyright: Copyright (c) 2010-2011 Benjamin Peterson
License: Expat

Files: debian/*
Copyright: Copyright (C) 2012 Colin Watson <cjwatson@debian.org>
License: Expat

License: Expat
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

.
The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

python-urllib3

Format: <http://www.debian.org/doc/packaging-manuals/copyright-format/1.0/>
Upstream-Name: urllib3
Upstream-Contact: Andrey Petrov <andrey.petrov@shazow.net>
Source: <http://pypi.python.org/pypi/urllib3>

Files: *
Copyright: 2008-2013, Andrey Petrov
License: Expat

Files: urllib3/packages/six.py
Copyright: 2010-2011, Benjamin Peterson
License: Expat

Files: urllib3/packages/ordered_dict.py
Copyright: 2009, Raymond Hettinger
License: Expat

Files: urllib3/packages/ssl_match_hostname/__init__.py
Copyright: 2011, Python Software Foundation
License: PSF-2

Files: debian/*
Copyright: 2012-2013, Daniele Tricoli <eriol@mornie.org>
License: Expat

License: Expat
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

.
The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

License: PSF-2
1. This LICENSE AGREEMENT is between the Python Software Foundation ("PSF"), and the Individual or Organization ("Licensee") accessing and otherwise using this software ("Python") in source or binary form and its associated documentation.

.
2. Subject to the terms and conditions of this License Agreement, PSF hereby grants Licensee a nonexclusive, royalty-free, world-wide license to reproduce, analyze, test, perform and/or display publicly, prepare derivative works, distribute, and otherwise use Python alone or in any derivative version, provided, however, that PSF's License Agreement and PSF's notice of copyright, i.e., "Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Python Software Foundation; All Rights Reserved" are retained in Python alone or in any derivative version prepared by Licensee.

.
3. In the event Licensee prepares a derivative work that is based on or incorporates Python or any part thereof, and wants to make the derivative work available to others as provided herein, then Licensee hereby agrees to include in any such work a brief summary of the

changes made to Python.

4. PSF is making Python available to Licensee on an "AS IS" basis. PSF MAKES NO REPRESENTATIONS OR WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED. BY WAY OF EXAMPLE, BUT NOT LIMITATION, PSF MAKES NO AND DISCLAIMS ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE OR THAT THE USE OF PYTHON WILL NOT INFRINGE ANY THIRD PARTY RIGHTS.

5. PSF SHALL NOT BE LIABLE TO LICENSEE OR ANY OTHER USERS OF PYTHON FOR ANY INCIDENTAL, SPECIAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR LOSS AS A RESULT OF MODIFYING, DISTRIBUTING, OR OTHERWISE USING PYTHON, OR ANY DERIVATIVE THEREOF, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY THEREOF.

6. This License Agreement will automatically terminate upon a material breach of its terms and conditions.

7. Nothing in this License Agreement shall be deemed to create any relationship of agency, partnership, or joint venture between PSF and Licensee. This License Agreement does not grant permission to use PSF trademarks or trade name in a trademark sense to endorse or promote products or services of Licensee, or any third party.

8. By copying, installing or otherwise using Python, Licensee agrees to be bound by the terms and conditions of this License Agreement.

===== COMMON LICENSES =====

Apache-2.0

Apache License
Version 2.0, January 2004
<http://www.apache.org/licenses/>

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.
4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

- (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
- (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
- (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
- (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.
6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.
7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.
8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly

negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[]" replaced with your own identifying information. (Don't include the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright [yyyy] [name of copyright owner]

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

[【マニュアルアンケートはこちら】](#)

よりよいマニュアル作りのため、アンケートにご協力願います。